

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

トランプ大統領が国際秩序を大きく変えようとしています。 これまでは、先の大戦の反省を踏まえ、米国はできるだけ戦争が起きないように、同盟国や友好国と連携して睨みを効かせていました。良い悪いはともかく、強力な「世界の警察官」がいることで、戦後の平和がそこそこ保たれました。

トランプ大統領は演技力が優れているので、発言などを追っていても真意がなかなか分かりません。**推測すれば、米国には2つの外交方針の可能性があると**思います。そのうちのどちらを選んでいるのかは、今後少しずつ明らかになっていくでしょう。

一つの可能性は「組長の縄張り」外交です。 世界にはいくつかの縄張りがあって、それぞれには強い国が一カ国、弱い国々が多数いる。これまで米国は弱い方の味方をしてきたが、もう他人の縄張りに口出しせず、その『組長』にお任せすればいいという考え方です。ユーラシア大陸の中央はロシアが組長であり、ウクライナのような弱い国は「黙って従う」方が、縄張りの平和が保たれる。中東はイスラエル、南アジアはインド、ヨーロッパは EU、北・中・南米大陸は、当然、米国が組長です。そして、東アジアでは中国が組長です。

これは我が国にとって大変なことです。 台湾が中国に攻められても、「組長」である習近平さんの縄張りなので、

米国からすれば「そちらにお任せします」ということになります。もし、尖閣諸島、沖縄などが中国に攻められたとしても、「日本は黙って『組長』のいうことを聞きなさい」ということになりかねません。

もう一つは、トランプ大統領はウクライナ戦争や中東の紛争に始末をつけて、中国への対応に専念するという戦略かもしれません。 米国にとって最大最強の相手とは、軍事力、経済力、政治力を見れば中国です。ところが、現時点では、ウクライナ戦争や中東のいざこざに巻き込まれており、手足を縛られています。もし中国が台湾侵攻をしたら、米国はとても対応できません。少々強引にでも、ウクライナや中東から早く抜け出すという考え方です。

いずれにせよ、トランプ大統領、もっと言えば、米国の国民の多くが「もう疲れた。我々には昔のような馬力はない。経済格差など多くの問題が山積している。いちいち米国がしゃしゃり出る時代は終わった」という感情が背景にあります。

私は、残念ながら、トランプさんの頭には1つ目の方針があるように思います。**我が国の外交としては、できるだけ2つ目の方針に米国を誘導することが大事です。**しかし、そのためには自分の身を守るための強い意思と軍事力を持たなければ、米国は納得しません。それが嫌であれば、中国という「組長」に気を使いながら生きていくのが、今後の日本の宿命となります。